

# 平成25年度 主題研修

「研究のまとめと来年度の方向性」

北九州市立光貞小学校  
主題推進委員会

平成16年度～平成25年度  
豊かな心を持ち、よりよく生きようとする  
子どもを育てる道徳教育

こころあったかの木  
(特別活動との関連)

学年掲示  
(総合単元的な道徳  
学習の足跡)

教室掲示  
(道徳の時間の学習  
の足跡)

道徳教育だより  
(地域への発信)

道徳の授業参観  
(地域への発信)

道徳教育に関する  
アンケート  
(地域からの要望)

総合単元的な  
道徳学習  
(道徳の時間を要と  
した各教科・領域と  
の関連)  
各教科  
特別活動  
学校・学年行事  
**道徳の時間**  
総合的な学習の時  
間

今回の教育研究論文では・・・  
道徳の時間のねらいに迫る、言葉を  
生かし考えを深める指導法の研究

【着眼1】

展開段階における、「書く活動と話し合う活動」の工夫

- ・ 役割演技をもとにした「書く活動と話し合う活動」＜低＞
- ・ 話し合いボードを活用した「書く活動と話し合う活動」＜中＞
- ・ 話し合いメモを生かした「書く活動と話し合う活動」＜高＞

【着眼2】

終末段階における、生活場面の事象と結び考えを深める場の設定

- ・ 家族や友達からの手紙、教師による説話などによって、温かい言葉を読んだり聞いたりする活動を位置付ける。

# 第1学年の取組

主題名： ともだちとなかよく  
内容項目： 低2ー(3) 友達と仲よくし、助け合う。  
資料名： 「くまさんのなみだ」(出典 日本標準)



ねらい くまや動物たちの気持ちを考えることを通して、友達と仲良く助け合っいていこうとする心情を育てる。

展開前段では、資料理解を図り、いじわるなくまのイメージをふくらませるために、くまがいたずらする様子を教師が**ペープサートを使って感情をこめて読み聞かせる**ようにする。また、振り回していた大きな木がくまの足に落ちてしまった時の森の動物たちの気持ちに共感できるように子どもが**役割演技**することで、友達と仲よくできない人間理解に気付かせるようにする。くまを含め森の動物たちみんなが笑顔で手をつないでいる時の会話をワークシートに書くことにより、友達を助けること、仲よくすることの大切さに気付かせる。

展開後段では、友達から助けもらったことやみんなで力を合わせてがんばったことを思い出すことによりねらいとする価値との関わりを考えるようにする。

終末は、学習を振り返りながらみんな**「ともだちはいいもんだ」**を歌うことにより、友達と仲良く活動する心地よさを味わわせ、余韻を残して終わるようにする。

・ 本実践を通し、K児やO児のように友達とうまくかかわることや、相手の思いを感じる事が苦手な子どもたちから、「ごめんね。」「ありがとう。」という言葉が生活の中で聞かれるようになった。お面やペープサートを用いて自分の思いを表したり、ワークシートに書いたりする活動や、話す相手を広げていく活動などを通して、自分と相手とのかかわりを1年生なりに学んでいくことができたように思う。しかし、そのようなかかわりが、仲の良い友達同士に限定されている子どもがいる。また、自分のしたことで相手が傷つくことがわかっていない子どももいる。

・ 友達の輪を広げるために、学習のなかでグループや学級全体で取り組む機会を設けることや、学級のなかよしめあてを決めて、学級全体で「なかよし」のための取り組みをおこなう必要がある。また、友達同士の良いかかわり方を全体に広げるために、帰りの会などのなかで、友達同士の良いかかわりを紹介する機会を継続してもつことが今後の課題である。

# 第2学年の取組

主題名： 友だちっていいな

内容項目： 低2ー(3)友達と仲良く活動し、助け合ってすごそうとする心情を育てる。

資料名： 「ひろったビスケット」(出典 学研)



ねらい ランとコロの気持ちを考える活動を通して、友達と仲良く助け合うことの大切さを  
知り、友達を大切にしようとする心情を育てる。

コロに「こっそりふたりでたべよう。」と言われた時のランの気持ちを考える場面では、発問を「ランになってみよう。」とし、**ペアで話し合う活動**を行うことで、自分の考えを全体に紹介するようにする。また、臨場感をもたせるために**大きなビスケットの模型を持たせて発言**させる。次に、穴に落ちたコロを仲間が助けようとする、仲間の優しさ、その時のランの気持ちを、しっかりとつかんだ上で、中心発問へと発展していく。

中心発問後は、**ワークシートを活用し、発表**させる。しっかりと自分の考えをまとめた上で、発表の時間を多く確保することで、ランやコロの自分勝手な行動があったにも関わらず、仲間が二人を大切に思っていたことを再認識させる。

終末では、**友達から  
の手紙を読む**ことを通して、普段あまり知ることのない友達の気持ちを  
を知り、ねらいとする価値を一人ひとりの心の中に温めさせ、余韻を  
残して終わるようにする。

- ・ **お互いのことを知る機会**を増やす。
- ・ **グループ活動で協力する場**を重ねることで、お互いのことを知り、相手のことを見守ったり、手助けしたり、一緒に頑張ることが自然にできるようになると考える。
- ・ 今回多くの授業実践・学校行事で、話し合い活動を通して、自分の考えと友達の考えを交流する場を設定した。しかし、話し合いの仕方やきまりがまだ徹底しておらず、何をどのように話せばよいか分からずに困る児童の姿も見られた。道徳の時間だけでなく、国語科や学級活動の時間で**話し合い活動のスキルをしっかりと**身に付けさせた上で、話し合わせる必要があると感じた。
- ・ ペアでは、本音ができるのに、全体での発表の場では、本音で発言することができないことが多かった。道徳の時間は、「何を発言してもよい。」と、伝えているのだが、「よく思われたい。」「言うてはいけない。」と、自分の中で判断をするので、**本音を自由に出させる**ことが課題である。

# 第3学年の取組

主題名： 友達と助け合って

内容項目：中2ー(3) 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。

資料名： 「さとの心」(出典 文溪堂)



ねらい さとの心の変容を考える活動を通して，助け合いの大切さに気づき，友達のよさを認めて理解し合おうとする心情を育てる。

展開前段では，まず，人物の紹介や場面設定を挿絵の拡大図を提示することによって，資料に興味関心をもたせるようにする。次に，資料「さとの心」を教師が範読した後，キーワードとなる言葉を提示しながらストーリーを簡潔にまとめ，理解しやすいようにする。その際，試合直後の「もうあんなチームで試合なんかしたくない。」と言ったさとの気持ちをさとの立場に立って考えさせることで，共感できるようにし，人間理解を深める。さらに，「また試合に負けたけれど，今まででいちばん楽しい試合だったと思った。」という言葉に焦点を当てながら，ワークシートにその時のさとの気持ちを書かせる活動を通して，道徳的価値の追求を図るようにする。展開後段では，自分の生活の中で，友達といっしょに助け合ったことによって**楽しかった経験について話し合い**，自分たちの生活の中にも助け合おうとする気持ちやよき友達関係があることを主体的にとらえるようにする。

終末では，**友達から寄せられた「ありがとう」カードを視聴**することで，友達とのきずなを改めて感じ，温かい気持ちで学習を終わらせ，今後の生活へと意識をつなぎ，実践への意欲を高めるようにする。

・ 毎日の生活の中で、困っている時や悲しい時などに、友達が手助けしてくれてうれしかった、友情を感じたその気持ちを「ありがとう」という言葉に集約して、カードに書き、友達に伝えていった。学習の終末では、友達から寄せられた「ありがとうカード」を視聴することで、友達とのきずなを改めて感じ、温かい気持ちになり、今後の生活へと意識をつなぎ、実践への意欲を高めるようにしたいと考えたが、ありがとうという意識が強く、信頼・友情という主題より感謝の気持ちが浮き彫りになっていった。助け合い、信頼友情を育んでいくことが、全面にでるようになっていくほうがよかったと思われた。

・ 少人数での話し合い活動では、**友達の考えを聞く時の視点を、もっと明確に持たせる**必要があった。ただ、ワークシートに書いた考えを読み合うだけで、自分の考えと似ている点や異なっている点、よいと思う点などに目を向けて聞くことができていない子どもも多くいた。今後、**話し合い活動の大切なポイント**を低・中・高学年の段階を踏まえて、明確にしていきたい。

・ 道徳の時間と他教科領域とのつながりを深く考えたり、他教科領域の中で、道徳の時間に育んでいったことがどう表れているのか、見取っていくことが十分にできなかった。もっと、教師に学校生活全体の中で、道徳教育を見ていく力を強めなければならない。

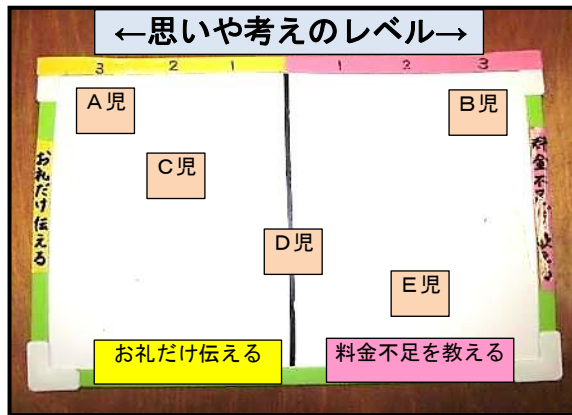


# 第4学年の取組

主題名： 本当の友達

内容項目： 中2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

資料名： 「大きな絵はがき」 (出典 東京書籍)



ねらい 広子の友達とのかかわり方について話し合う活動を通して、相手のことを心から思うことの大切さに気が付くとともに、友達との信頼関係を深めていこうとする心情や態度を養う。

展開前段では、広子の心の変化に着目させて資料を読み、料金不足を知らせるべきか、お礼だけを伝えるべきか葛藤する広子の思いを、**ワークシートにまとめたり、グループで話し合ったり**する。その中で、教えることに決めた広子の決心には、二人の信頼が土台にあることに気付かせ、本当の友達とはどのような関係なのかを考えさせたい。その際、どちらを選ぶということにこだわらず、二人の友情や信頼が広子を動かしたということも感じ取らせたい。

展開後段では、相手のことを思って決心した広子の心情を踏まえ、自分のこれまでの生活経験を振り返りながら、**自分だったらどうするのかを考えさせる**。さらに、**グループで話し合う**ことで、児童の考えが深まることを期待したい。

終末では、相手のことを考えて行動した子どもの体験談を、**事前に行ったアンケートから紹介**することで、互いに信頼しようとする心情を深め、実践への意欲を高めるようにする。

・ 話し合い活動においては、児童の思いを引き出し、言葉で表して聞き合い、認め合うことが大切である。話し合い活動を活発にすることができるよう、4年生は「話し合いボード」を使い実践した。話し合い活動がうまく進められるような手立てとして、他にどのようなことが考えられるのか、どのような物を準備すればよいのかというところまで、研究を深めていくことはできなかった。話し合い活動を進めるためのいろいろな手立てや方法の中から、児童の実態や資料の内容項目に合ったものを選び、年間指導計画の中に位置付けて、計画的に実践していくことが大切であると考えます。また、発表が苦手な児童の思いを、教師がどのようにしてつかみ、そして、引き出していくことができるのかを追求していくことも必要だと思う。

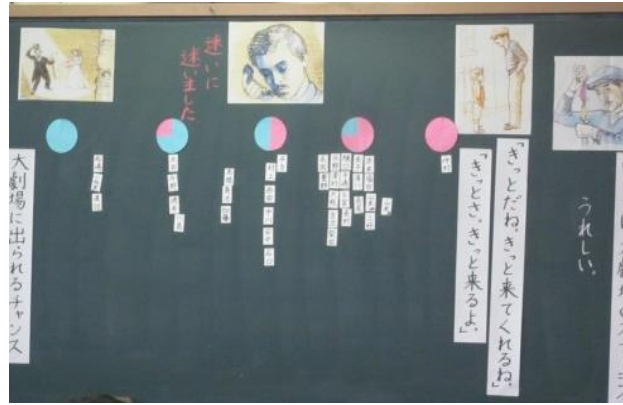
・ 自分の思いを書くこと、そして発表すること、さらには、話し合うことは、道徳の学習だけでなく、様々な教科・領域で取り組んでいかなければ、力を伸ばしていくことはできない。何より、自分の思いを素直に表現できるような学級づくりが必要である。教師が普段から児童の様子に目を向け、心の成長を見取ることが、学級づくり、そして道徳教育の充実へとつながるだろう。道徳の学習で心に残ったことを、児童がこれからの行動へとつなげ、心豊かに成長してほしいと願う。

# 第5学年の取組

主題名： 誠実な心で

内容項目： 高1ー(4) 誠実に、明るいい心で楽しく生活する。

資料名： 手品師（出典 学研）



ねらい 自分自身に対して正直に生きることの快さに気づき、明るく誠実な心をもって生活をしていこうとする心情を育てる。

展開前段では、資料を教師が範読した後、キーワードとなる言葉を提示しながらストーリーを簡潔にまとめる。そして、**心情円盤**を活用して、大劇場へ行くか男の子との約束を守るかを話し合い、揺れ動く手品師の心情に共感できるようにする。そして、「男の子との約束を守ろうと決めたのは、どんな気持ちを大切にしたからでしょう。」という中心発問を投げかけ、男の子との約束を守ったのは、自分を裏切ることができないという誠実な心があったからだということに導きたい。

展開後段では、**手品師への手紙**を書かせる。手紙に書くことで、手品師と向き合い、自分を見つめさせ、よりよい自分であるために誠実に生きることの大切さをさらに感じ取らせたい。

終末では、新聞に投稿された**記事「最後になった娘に誇り」**を紹介して、温かい雰囲気の中で、余韻を残して終わる。

- ・ 話し合い活動から主発問へと場面が変わるときの手だて  
自分と重ね合わせて考える話し合いから、資料に戻って主発問をした時に、自分のことを答えるのか手品師のことなのか戸惑った児童が多かった。特に今回のように考える場面が変わるときには、戸惑わないように児童の意識の切り替えの手だてが必要だったと考える。

- ・ 児童の生活を振り返らせる手だて

本時で取り扱った高1－(4)【誠実・明朗】のように、児童がこれまでに意識していない価値項目を学習した時に、**生活におとす手だて**を考える必要がある。

- ・ 一年間を見通した計画作り

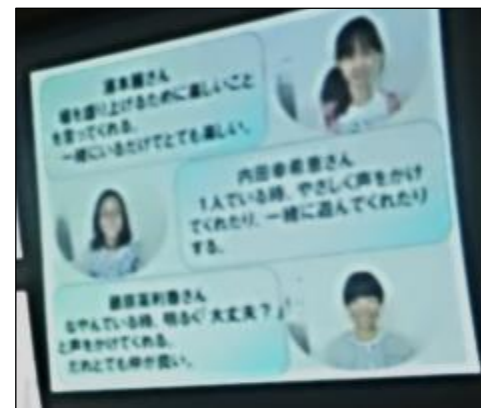
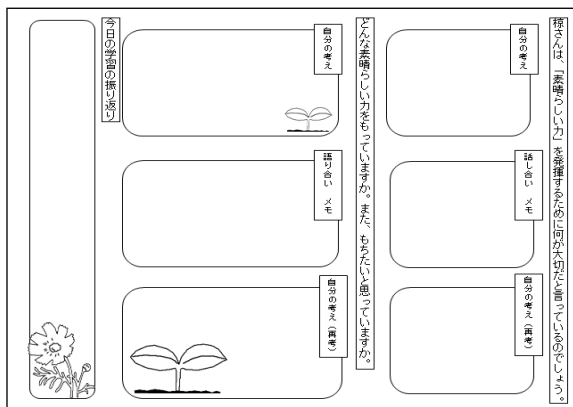
本時の内容項目【高1－(4)】は、今回初めて取り扱った。3学期の総合的な学習「理想の6年生をめざして」を通して、実践できる力を培うためにも、1学期からこの項目を取り扱う必要があった。**年度当初に、どんな力を培いたいかを考え、年間計画を作る**必要がある。

# 第6学年の取組

主題名： 自分の中の宝物

内容項目：高1ー(6) 自分自身の特徴を知って、悪いところを改めよい所を積極的に伸ばす。

資料名：「人間はすばらしい」(出典 学研)



ねらい 自分らしさやよさについて主体的に考え、自分独自のよさがあることを知り、そのよさをよりよく伸ばし、自身の可能性を広げていこうとする心情を育てる。

展開前段では、動物のもっているすばらしい力と人間のもっているすばらしい力という観点で資料を児童とともに整理していく。そうすることで、人間には、一人一人違った、他人と比べられることのない尊重されるべき個性があるということに気付かせる。そのうえで、「**棕さんは、素晴らしい力を発揮するために何が大切だと言っているのでしょうか。**」という中心発問へと展開していき、本時のねらいとする道徳的価値「**向上心・個性伸長**」への方向性を図る。展開後段に入る前に、**教師の説話**で本主題の道徳的価値の一般化を図る。これは、展開後段で、自分や友達のよさについて見つめ直す時間がより活発になることをねらっている。まず、自分自身を見つめ直し自分の特徴やよさを探す。次に、**友達と互いのよさを語り合う**ことで、新たな自分のよさや友達のよさに気付く機会とする。そして、そのよさを伸ばして行くにはどうしたらよいか、自分自身と再度、向き合う時間を確保する。

終末では、**友達が見つけた一人一人のよい所(事前アンケート)**を紹介することで、さらなる自己肯定感の高まりを期待して授業を終える。

- ・ 話し合ったことで、道徳的価値の自覚が深まったことが、児童にもよく分かるようなワークシートの研究を進めること。
- ・ 年間を通して、同じパターンのワークシートを使用することで上がる効果の検証をすること。
- ・ たくさんの先生の授業を公開し、教師として多様な授業スタイルを研究していくこと。
- ・ 子どもたちの心の成長にアンテナをはりめぐらせ、どんどん見つけて価値付けしていくこと。

## (1) 展開段階における、「書く活動と話し合う活動」の工夫【着眼1】による成果

### ○ 役割演技をもとにした「書く活動と話し合う活動」〈低学年〉

#### 【成果】

・ 低学年の中には、資料の内容を解釈することが、十分でない児童もいる。そのため役割演技を行うことで、**資料における主人公等の気持ちを実感的に理解させることができ、資料の内容の解釈を補足したり補強したりすることができた。**そのことにより、書く活動と話し合う活動において、より深い記述や話し合いができた。

・ 書く活動と話し合う活動が活性化したことで、本時における道徳的価値を深くとらえさせることができた。

役割演技をもとにすることに当たっては、以下のことに留意する必要があることを実感した。

#### 【留意点】

- ・ **どの場面で役割演技を取り入れた方がより効果的なのか**を授業の構想段階において、本時のねらいと学級の実態を踏まえて位置づける。
- ・ 黒板を使った場面設定やお面などの小道具の作成などの環境整備の充実に努める。
- ・ 日ごろから、何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気づくりに努めるとともに、受容的な姿勢を大切にしつつも、役割演技を行う際や見る際の約束を決め、徹底させることが重要である。

## ○ 話し合いボードを活用した「書く活動と話し合う活動」〈中学年〉

### 【成果】

- ・ 中学年では、話し合う活動の際、意見が一方通行になり、深まらないことがある。また、意見を述べるのが苦手な児童もいる。そこで、話し合いボードを活用したことで、**友達**の考えや立場を視覚的にとらえることができ、**考えや立場の違いを班員が認識でき共有化することができた**。そのため、**考えの相違点等を認識した上で、意見を聞いたり、話したり、書いたりすることができた**。こうしたことで、話し合う活動や書く活動が活性化し、本時でねらう道徳的価値を深くとらえさせることができた。
- ・ 話し合う活動の前に自分の考えを整理し、まとめる必然性が生じた。
- ・ 学級全体で話し合う活動においても、話し合いボードを見せながら話すことで、各自の考えの立場を視覚的にも伝えることができた。

### 【留意点】

- ・ 話し合いボードは、どちらの言動をとるべきか葛藤する場面のある資料の際に、特に、効果をもたらすと考える。**資料の内容に応じて、心情円板やワークシートを主にした話し合う活動も選択肢に加え、授業を構想する**。
- ・ 他の教科・領域の学習においても、班(少人数)で話し合う活動を意図的に取り入れ、話し合いの指導や支援を行い、話し合う能力を高める。
- ・ 認め合い、支え合いのできる学級経営に努め、話し合いボードを活用した「書く活動と話し合う活動」の成果が一層上がるようにする。



## ○ 話し合いメモを生かした「書く活動と話し合う活動」〈高学年〉

### 【成果】

・ 高学年では、話し合いの段階では深まりがみられるものの、自分の考えを構築する際に、話し合ったことが生かされないことがある。そこで、話し合った際に、**自分と異なる友達の考えをメモさせ、それを生かして再考させたことで、本時における道徳的価値を深くとらえさせることができた。**

・ 話し合う活動の前に自分の考えを整理し、まとめる必然性が生じた。

話し合いメモを生かすことに当たっては、以下のことに留意する必要があることを実感した。

### 【留意点】

・ メモは、あくまで自分の考えを練り直すために書き留めるものという認識をさせ、大切だと思ったキーワードを素早く記録する指導を行う。

・ 班で話し合う活動を行い、**話し合いメモをさせる活動を学習のどの場面でも取り入れるべきか、資料の内容に応じて、適切に行うようにする。**

・ 認め合い、高め合いのできる学級経営に努め、話し合いメモを生かした「書く活動と話し合う活動」の効果が一層上がるようにする。

## (2) 終末段階における、生活場面の事象と結び、考えを深める場面の設定【着眼2】

### ○ 家族や友達からの手紙、教師による説話やプレゼンテーションの視聴

#### 【成果】

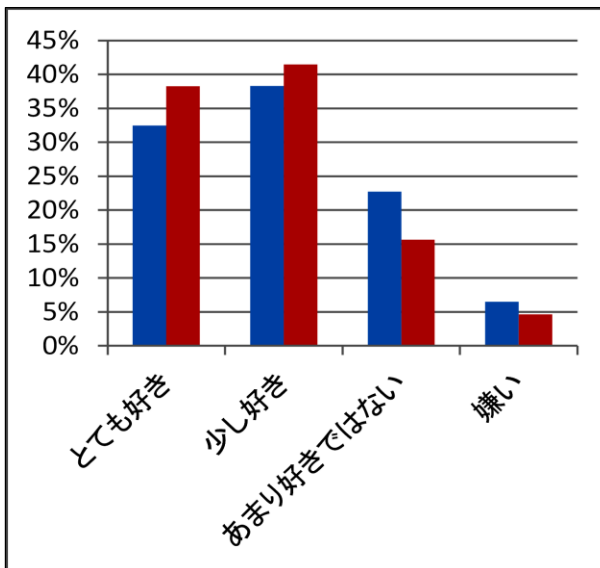
- ・ 小学生の中には展開段階でとらえた**道徳的価値を、自分の生活の事象と結ぶことができない児童もいる**。そこで、**教師が意図的にその場面を設定**したことで、本時のねらいに迫ることができ、道徳的な成長を自ら実感させ、道徳的実践力を高めることにつなげることができた。
- ・ 家族や友達、教師など自分にとって身近な人たちへの感謝の気持ちを高めることができた。

#### 【留意点】

- ・ 児童の実態に応じ、道徳的配慮を心がけて視聴させる内容を吟味する。
- ・ 児童理解を常に心がけ、一人一人のよさを教師がしっかりと把握する。
- ・ 「友達のよいところみつけ」等の取組を充実させる。
  - ・ 家庭や地域との連携を密にし、児童の情報や学習の支援を得るようにする。

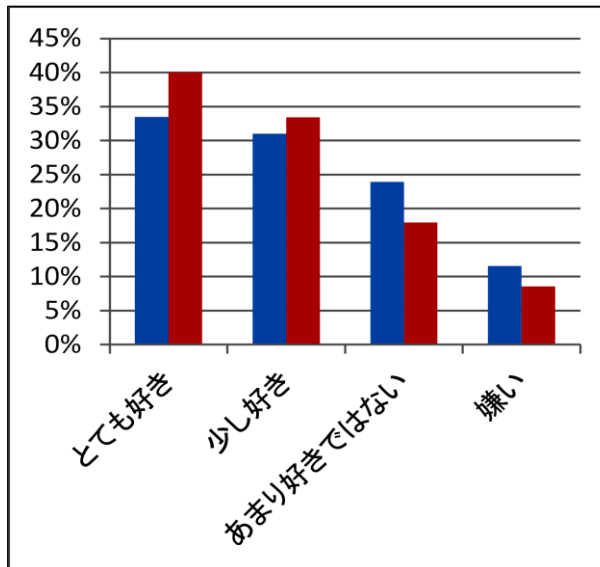
### 話し合いは好きか

学年	好き		増減	嫌い		増減		
	9月	12月		9月	12月			
1年	152	160	+	8	36	43	+	7
2年	114	130	+	16	47	32	-	15
3年	122	141	+	19	50	28	-	22
4年	104	111	+	7	34	26	-	8
5年	113	139	+	26	63	37	-	26
6年	90	113	+	23	57	36	-	21



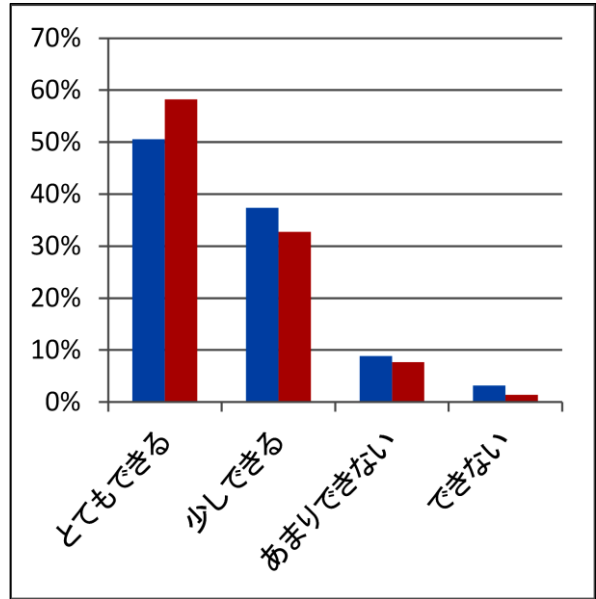
### 書くことは好きか

学年	好き		増減	嫌い		増減		
	9月	12月		9月	12月			
1年	148	167	+	19	38	34	-	4
2年	118	132	+	14	47	29	-	18
3年	119	133	+	14	54	36	-	18
4年	100	98	-	2	38	39	+	1
5年	84	93	+	9	92	83	-	9
6年	67	105	+	38	81	42	-	39



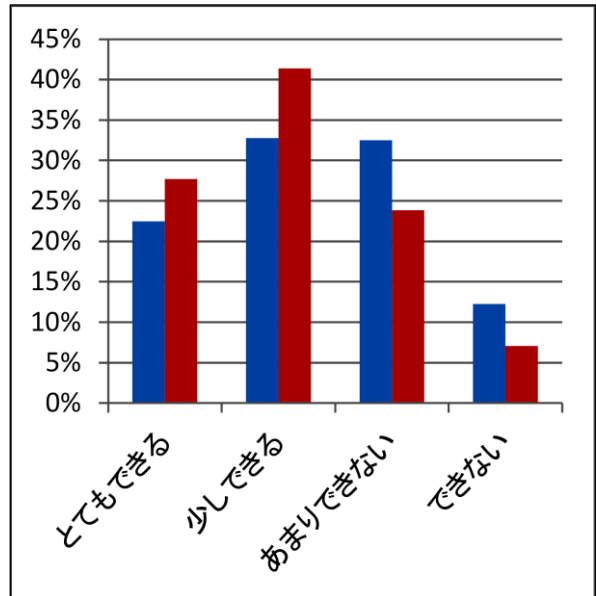
### 相手の意見や考えを聞くことができるか

学年	できる		増減	できない		増減
	9月	12月		9月	12月	
1年	165	177	+ 12	26	25	- 1
2年	145	146	+ 1	21	18	- 3
3年	155	156	+ 1	21	18	- 3
4年	125	131	+ 6	13	5	- 8
5年	148	158	+ 10	26	18	- 8
6年	135	140	+ 5	13	6	- 7



### 自分の意見や考えを話すことができるか

学年	できる		増減	できない		増減
	9月	12月		9月	12月	
1年	123	147	+ 24	69	55	- 14
2年	93	121	+ 28	72	43	- 29
3年	89	115	+ 26	86	57	- 29
4年	87	96	+ 9	51	40	- 11
5年	81	114	+ 33	95	62	- 33
6年	68	93	+ 25	65	50	- 15



# 平成26年度 研究主題(案)

道徳の時間のねらいに迫る、  
言葉を生かし考えを深める指導法  
の研究